

～郷土に生きる水産業～

第1回 高山漁協の自営定置網



高山漁協は、預貯金や保険などの信用事業を取り扱う管理課のほか、市場業務などを取り扱う事業課があります。その事業課の中で漁協自ら定置網事業を行っています。今回は、この自営定置網事業と従業員の一日の作業についてご紹介します。



自営定置網の網持ち

高山漁協の自営定置網は水深27メートル以上の深場に設置される大型定置網で、東風泊沖と飯ヶ谷沖に2カ所に設置されており、年間1億を超える水揚げで高山漁協を支えています。現在は20代から70代までの21名の海の男達が額に汗して働いており、この道一筋31年という猛者もいます。

朝5時頃に漁協所有の漁船3隻で東風泊漁港を出港し、その日の天候や漁獲状況をみて1カ所の網持ちか、2カ所の網持ちか、飯ヶ谷正文船頭が判断します。網持ちでは、それぞれの持ち場で息のあった作業を進めていきます。大きな魚影や大漁の魚群が見えると、かけ声も大きくなり、波しぶきとともに勇み立ちます。なお、4月から5月中旬までサバ子が約

300トン水揚げされました。他にも約55キロほどのマグロが9本、コノシロ、がたカマス、水イカが好漁でしたが、あじは約15トンに留まり、今後に期待されているところです。

定置網で獲れた魚を波見港へ運び、みんなで魚を選別して漁協市場へ水揚げします。その後、次の日の氷の積込み、10時頃に東風泊漁港へ帰港します。

帰港後は、納屋で宮園良一料理長が作ったおっけでみんな一緒に昼食を取ります。仕事のことや家族のことなどを語り合いながら同じ釜の飯を食べる伝統は、今でも引き継がれており、組織の結束をより強くしてくれます。昼食後は、漁具の補修や網洗いの作業を全員で行い、14時頃一日の作業が終わります。

最後に、かごしま水族館の人気者だった初代ジンベイザメの「ユ



たにやまひさお
高山漁協長 谷山久男さん

高山漁協は昭和24年の創設以来、多くの水揚げを行ってきており、当地域は県内でも優秀な漁場であると評価を得ています。海で働くことは、天候や潮の状態が大きく左右され、想像以上に大変なことです。大漁を夢見て毎日頑張っている。これからも、新鮮で安全な魚を皆様に届けられるよう努めてまいります。



毎日納屋で同じ釜の飯を食べます。

「ウユウ」は、高山の鳥越水産の定置網で捕獲されました。それ以外にもたくさん魚を高山・内之浦漁協からかごしま水族館へ提供しており、最近では1月に自営定置網で獲れた、がたカマスを提供しました。

今後とも地元の水産と魚に注目してください。

(高山漁協：下山博之)